

生駒市学校教育のあり方検討委員会  
学校規模適正化部会  
令和元年度第2回（第7回）会議 会議録

開催日時 令和元年5月30日（木） 午後2時から

開催場所 生駒市役所 4階 402会議室

出席者

（委員） 前田部会長、松尾委員、岡島委員、高島委員、山中委員、  
大谷委員

（事務局） 真銅教育振興部長、坂谷教育振興部次長、辻中教育総務課長、  
山本教育総務課課長補佐、前田教育指導課課長補佐、牧井教育総  
務課庶務係長

（傍聴者） 2名

生駒市自治連合会役員改選に伴う委員交代により、松尾委員の紹介

1 案 件

(1) 前回会議での主な意見の確認

（前田部会長） まず、「資料1 前回会議での主な意見のまとめ」について、  
説明いただく。

（事務局） 【資料1の説明】

（前田部会長） 何かご意見はないか。

特にご意見は無いようだが、前回の会議のご意見を確認い  
ただいて、今後の検討に活かしていきたいと思う。

(2) 学校規模適正化等検討に当たっての基本的な考え方・進め方について

（前田部会長） 事務局から資料等について説明いただく。

（事務局） 【資料2の説明】

（前田部会長） 前回会議から修正いただいたが、ご意見はないか。

（大谷委員） 検討の進め方としては問題ない。

しかし、優先順位から特定に絞るという形にしたときに、結果として絞ることになることは良いとは思いますが、絞った検討の過程を記録として残すようにしておかないと、ある特定の地域を前提とした検討になってしまうことに懸念がある。

(松尾委員) 絞ることにした経緯をしっかりと記録に残すことが重要になってくる。

検討委員会として、既にいずれかの校区を絞って検討していくという考えがあるのか。

(大谷委員) これまでの配布資料等を基に、ある理由からある校区の適正化について検討することとしたといった検討の経緯を示していく必要があるということである。

すべての校区を見直すのは、物理的にも実質的にも不可能であると思うので、何をもって判断したかということが必要ではないか。

(松尾委員) 既に一定の絞り込みが終わっている印象を受けたので、質問させていただいた。これから検討されるということであれば、この表現で問題ないと思う。

(高島委員) ある地域に絞って検討していくことには問題ないとは思いますが、適正な規模等の判断基準を明確に定めていく必要があると思う。その適正規模の基準等によって、しっかりと議論していくことが大切ではないかと思う。

(前田部会長) 「検討対象とする校区を絞ること」という表現について、意見はないか。

(岡島委員) 市の学校教育全体のあり方を検討することになっているとは思いますが、特定の地域に絞った形になるとそこだけの答申になってしまうのは疑問がある。

(前田部会長) 今後議論の中で特定の地域に絞っていく可能性はあるとは思いますが、進め方として記述しておくかどうかという意見だが、何か他にご意見はないか。

(大谷委員) このままの記述では、特定の校区を見直すことを前提として見直したと捉えられかねないのではないかと思う。

(前田部会長) 優先順位を付けてという表現と比較した場合はどうか。

(高島委員) 優先順位というのであれば、学校規模を考えた時に最優先で考えていかなければならないという風になるとは思いますが、校区を絞るという表現に問題があるのであれば、優先順位という表現でもいいのではないかと思う。

市全体の学校の規模や将来の児童生徒数推計を見ながら検討していくことになろうかと思うが、以前と比べても開発等によって、校区自体もかなり変わっている。

学校規模などの判断基準を設けて、その基準をもって市全体を見た時にやはりある校区について検討が必要であるということで、市内全体を見た中での検討になってくるのではないかと思う。

(岡島委員) 今回の考え方・進め方の順番に審議を進めていけばいいのではないかと思う。まずは、「望ましい」学校規模・学校配置を検討した後に、検討が必要な地域が出てくるのではないかと思う。

その過程をしっかりと記録として残しておけばいいと思う。

(前田部会長) 結果的に特定の校区を検討することになる可能性もあるが、今後議論する学校規模や学校配置の基準に照らし合わせながら、全市的に検討を進めていくという表現でいかがか。文言の詳細な表現については、事務局と調整しながら決定したいと思う。

修正については、今回の議論を踏まえて事務局と調整させていただき、部会長に一任いただいてもよろしいか。

< 異議なし >

(前田部会長) その他の点についてご意見はないか。

(大谷委員) 「など」の表現について、「等」という表現の統一をお願いしたい。

(事務局) 修正させていただく。

(前田部会長) 他にご意見は無いか。

ご意見が無いようなので、その他の点については、(案)のままとしたい。

(3) 「望ましい」学校規模・学校配置について

(事務局) 【資料3～6、追加資料1の説明】

(前田部会長) 次第に沿って①～④の順に審議を進めていきたいと思うが、まず、①の小中学校の適正規模・適正配置の全国の状況についてご意見等はないか。

(岡島委員) 生駒市は現在基準を定めていないということではよろしいか。

(事務局) 定めていない。

(松尾委員) 資料3の6ページで、生駒南第二小学校は大瀬中学校区なのか。実際に小平尾町の北部の児童は生駒南第二小学校区にもかかわらず、生駒南小学校に通学しており、いびつになっている。自治会の区割りも生駒南第二小学校区になっており、今後検討していかなければならないと思っている。

(事務局) 資料の便宜上、生駒南第二小学校を大瀬中学校に入れさせていただいているが、生駒南第二小学校の児童は、生駒南中学校と大瀬中学校の校区に該当している。

(大谷委員) 市としては基準を定めていないということだが、国の基準を準用されているのか。

(事務局) 市では基準を定めておらず、国の基準が(本市にとって)適正であるとも判断できない。

(大谷委員) 枚方市も三田市も一定の基準をもって、それに適合するように対応していくとされている。やはり、国の基準をもとにするかは分からないが、何かしらの市の方向性は持つべきだと思う。

近隣他市はここ数年で検討されている。やはり、説明責任を果たす上でも、一定の基準を定めて検討していくことが必要であろう。

(高島委員) だからこそ、検討委員会で基準を定めて教育委員会に対して答申するということになってくると思う。また、検討委員会が答申したものを教育委員会において決定していくことになろうかと思う。

(大谷委員) 前回の議論で既存の学校施設の活用を前提として検討するということがあったかと思うが、そのような制約を前提として

検討を行ったということを示しておくことが必要ではないか。  
もし可能であれば、制約を示す資料をいただければと思う。

(前田部会長) 市では現在基準を定めていないということで、今後、適正規模・適正配置の議論になってくるとは思うが、必要な資料を事務局から提供を受けつつ、本部会で検討していきたいと思う。

(高島委員) やはり適正規模や適正配置の検討に当たっては、国の基準がベースになってくるのではないかと思う。他市とは人口の差があるとは思いますが、国の基準をベースにしつつ、他市の基準も見ながら検討していけばいいのではないか。

(前田部会長) ④の生駒市における「望ましい」学校規模・学校配置にもつながってくるご意見かとは思いますが、全国の状況や近隣市の状況なども含めてご意見等は無いか。

(岡島委員) 各市ではそれぞれ基準を定めておられるが、定めた後に何か計画等で行動に移されているのか。

今後、基準を定めて検討していくことになろうかとは思いますが、現状として教育現場として何か問題点があるのか。やはり問題点を把握していくことが重要であり、その問題点を把握しておかないと的確な答申は出せないのではないか。

国の基準もあろうかとは思いますが、市独自の考え方で検討していくことでいいのではないかと思う。

先生方が小規模校に対してどのように考えているのか、特に生駒南第二小学校区の意見を吸い上げていく必要があるのではないかと思う。

小規模校における先生方の考え方はどうなのか、資料として提供できるのかを聞きたい。

(大谷委員) 将来的に市全体としてすべての学校が国の定める学校規模の基準を満たさなくなってくる。今後、やはりこれを維持していこうとするのであれば、やはり統廃合は考えていかなければならないし、新たな施設も必要になってくるのではないか。また、通学時間の問題にもなってくる。

小学校は適正であるが、格差があることを問題にするのか、

小規模であることを問題にするのかによっても変わってくる。私個人としては、公立学校の公平性ということを考えて、格差を無くすということの主眼に置くべきではないかと思っている。

(前田部会長) 小規模校のメリット・デメリットや先生方の学校運営のしやすい学校規模の考え方などの情報についても検討が必要ではないかということである。

(岡島委員) データや基準のみをもって答申を教育委員会に対して出しているものなのか、非常に難しい問題である。

(高島委員) 確かに岡島委員のご意見のとおり、アンケートや基準がすべてではないと思う。しかし、検討の段階において、他市も含めて国をベースにしつつ検討していかなければ、おそらく市独自のものを作るのも難しいのではないか。

各学校の意見の吸い上げももちろんあればいいと思うが、中学校としては1学年4クラス全12クラスが一番やりやすい。1人の教員がすべてのクラスを見ることができる。5クラスでも可能であり、教員にとっては4～5クラスが、教科や生徒指導の面でも一番やりやすい。また、学校全体としても活動にあたっては、4～5クラスが適正であると思う。それ以上になってくるとなれば、施設面からも教室の空きが無いといった問題が起こる。国の基準もアンケートの結果もそのあたりが考慮された数字ではないかと思う。

(山中委員) それぞれの学校の取組とデータなどの数字にギャップがあるのではないか。生駒南第二小学校では、児童数が少ないなどの良さを活かしてやっている。

基準を定めてもどうしても基準を満たさない学校もある。あすか野小は大規模校としてやりにくいところもあると思う。

(松尾委員) 中学校は特にクラスが少ないと部活動に影響がある。生駒南中学校は野球部ができない。別の学校と統合してやっているなど、勉学面では集中して行うことができるかもしれないが、体力づくりの面で特に影響がある。隣の大瀬中学校は1

5クラスあり、中学校間で格差がある。子どもたちが活動しやすいような形にする必要がある。

(岡島委員) 国の基準に合った形に持っていくことも一つなのかもしれないが、校区によっては通学区域そのものについて検討していかなければならないといったこともあり、答申自体がすぐさまできるものではないと思っている。答申も一つのプロジェクトと考え、10年後を見据えた計画的なものであればいけるのではないか。

また校区を変えとしても、すぐさま変えられるものではなく、長期的な視点が必要になってくる。

答申の形が見えてこないのか、どうすればいいのか見えてこない状況である。

(前田部会長) どれだけの先を見通した答申にすればいいのかということである。

(岡島委員) 教育委員会としてどこまでの先のことを考えた答申を検討委員会に求めているのかを教えてください。

働き方改革についても検討委員会の答申がほぼそのままの形で動いている。

(前田部会長) どこまで先を見通したということは、擦り合わせが必要になってくるとは思う。

学校規模や配置について視点は色々あるとは思いますが、通学面だけでも距離やルートなど様々な面があり、子どもたちがどのような校区を選択しているのかといった傾向も踏まえ、一つ一つどのような規模や中身が適切なのか、洗い出していく作業が手順として必要であると思う。

すべての条件を満たす学校は無いと思うので、市全体として大部分を満たしていることが、学校規模の適正化を考える上で大切ではないかと思う。

また、今後進めていく中で客観的に現状の学校の規模やあり方を評価していく上で、共通的な評価項目も必要になってくるのではないかと思う。他にご意見等は無いか。

(山中委員) 1学級当たりの児童生徒数について、資料3で低学年は2

5人～21人、中学年では30～26人、高学年では30～26人となっている。

もし、この基準でクラスを当てはめていくと、クラス数が一気に増える。現状としては、中・高学年は40人、低学年は30人程度・35人学級になっている。

1学級当たりの児童生徒数を少なくすれば、先生の数は増えて、負担は軽減されることになると思う。

現実として、生駒南第二小学校の6年生では少人数加配でクラス数を増やしている。これで運営がすごく楽になっている。

(松尾委員) 国の基準に合わせていくなれば、統廃合も視野に検討していく必要があるが、教育現場の視点からクラス人数をどう持っていくのかということも考えていく必要がある。

このような時勢の中で統廃合は仕方がないと思う。

(前田部会長) 今後、児童生徒数が減少していく中で、一定の規模を維持しつつ、活発な学校活動を維持していくためにも、適切な学校規模は必要になってくるのではないかと考えている。また、これからの教育に合った学校教育のあり方自体も照らし合わせていかなければならないと思う。

Society5.0と言われるスマート社会が到来し、文科省においても学校 ver.3.0という像も出してきた。その中で個別最適化された学びがキーワードとなっている。こういった今後の学校教育のあり方も検討していく必要もあるのではないかと考える。

(岡島委員) 参考資料として交野市の事例が挙げられているが、中学校区ごとに現状と課題、配置案を提示されている。今後、基準を設定した後は、このような形で検討していくことになるかと思うが、もし時間が許すのであれば、中学校区ごとに意見を聴く場を設けて、現状と課題を吸い上げた上で検討していく形もあると思う。

一つの流れがあるので、最終のゴールが分かれば、さらに見通しが立ってくるのではないかと考える。

(前田部会長) 交野市の事例は非常に分かりやすい。各校区を共通の項目で評価し、説得力がある。最終的な形にしていくのは、教育委員会であるとは思いますが、最終的に交野市のような形にもっていけるように、答申において方向性を示すことができればよいと考えている。

交野市では、評価項目を設定し、客観的に評価している。今後議論を進めていく中で、このような客観的な評価項目を設定し、今後を見据えた時のスタート地点にしてもいいのではないかと思う。

今後の議論において、客観的な基準や評価項目を設定していくことも観点を整理し、情報を共有していく上でも良い方法ではあるとは思いますが、何かご意見はないか。

今回の委員からの意見を踏まえ、次回に評価項目・観点を事務局から素案を提示いただいて議論をしていくということできかがか。

それでは、素案を作っていく中で、議論をしていくこととしたい。また、最終的な答申の形についても、次回以降議論を進めていきたいと思う。

#### (4) その他

次回会議は7月5日(金)午後2時から開催

以 上